

野球解説者の村田兆治さんが書きたいじめに対するメッセージを紹介しました。その後、生活指導部の先生が「おにと名づけられたぼく」という絵本の読み聞かせを行い、心に深い傷を負わせるいじめを決してしてはならないことを伝えました。言葉も行動も、そのつもりがなくても相手を傷つけたり、誤解を生んだりすることがあります。理解しようとする思いをもち、相手の気持ちを考える心のゆとりをもちたいものです。

<朝会で話した主な内容> テーマ：「自分で謝る勇気もって」

私は、全国の子供たちに野球を教えています。キャッチボールをすると、とても速い球を投げる子もいるし、緩やかな球を投げる子もいる。でも、速い球を投げる子の方がよい選手とは限りません。速くても相手が受けられなくては意味がありません。よい選手は、自分の球を相手が受け止められるかどうか、よくわかっています。

言葉も一緒です。自分では、ふざけて言ったつもりでも、相手は傷ついてしまうことがある。力で組み伏せたり、たたいたりすればなおさらです。相手には、遊びとは受け止められません。

自分の言葉や行動がどんなふうを受け止められているか、相手の様子に注意してほしい。そして、ひどいことをしたのだと気が付いたら、すぐ謝ってほしい、それが勇気です。

野球は、一人ではできません。間違ったことを理解し合って、力を合わせなければ、決して勝つことはできません。だから、自分の力で気付くようになってほしい。自分の意志で謝ることができるようになってほしいのです。元気に笑顔で遊べるよう、本当の勇気をもってください。

皆さんは、この言葉をどのように受け止めますか。言葉も投げつけるのではなく、相手が受け止められる言葉を選んで伝えたら、みんなが気持ちよく過ごせると思います。そして、あなたが使う言葉は、あなたがどんな人かを表すものです。どうか、相手の心を思われる人になってください。

<感想>

- 1 心に残ったことは、どんなに速い球を投げても、上手いわけではないこと。理由は、相手がキャッチできなければならぬからです。これからは、ボールを言葉にかえて、その言葉を相手が受け止められるようにしたい。
- 2 ぼくに心に残ったのは、言葉のキャッチボールです。理由は、言葉で相手を傷つけてしまうからです。相手が受け止められるような言葉をたくさん使うようにします。
- 3 心に残ったことは、「速いボールを投げられるからといって、上手いわけではない」と言うことです。確かに、速いボールが投げられるから手なわけではないし、言葉で言えば、自分は軽く言っただけに、相手にとってはとても重い言葉ということがあるからです。これからは、相手に言う言葉をちゃんと考えてから伝えたいです。
- 4 心に残ったことは、言葉のキャッチボールです。他人からは、ふざけて遊んでいるように見えても、本当は嫌がっていることがあると分かったからです。相手が嫌がることはやめよう、と思いました。
- 5 心に残ったのは、相手が受け止められるような言葉を言おうということです。これから、優しい言葉で話そうと思います。
- 6 最初は、「おに」という名前が嫌だったが、自分の名前の理由を知って、名前を好きになれた「おに」は、友達からはいじめられていても自分のことを自分が好きになれたので、とても心がすっきりしたと思います。私が、もし「おに」だったら、いじめに対して立ち向かいます。
- 7 今日の話聞いて、改めていじめはダメだと思いました。自分はふざけているつもりでも、相手はいじめだと受け入れてしまうかもしれないから、そういうことに気を付けてこれから生活していこうと思いました。
- 8 名前には、それぞれの思いや願いが入れられていることが一番心に残りました。自分の名前もどんな思いや願いで付けた名前なのかを聞いてみたいなあと思いました。
- 9 もし、私が「おに」という名前が嫌われていたら嫌だし、名前が変という理由だけでいじめるのは絶対にだめ。もし、いじめている人を見たら、いじめられている人の気持ちになって考える。いじめのことをもっと注意しなきゃだめだし、いじめられている人を見たら助けるということも意識しなきゃだめだと思いました。
- 10 最後には、「おに」と名づけられても、その「おに」という名前にはほこりをもって生きていこうとするおに君に学ばされ、とても強い生き様に感動させられました。もしも、自分のコンプレックスをけなされても、誇らしく生きていこうと思います。